



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051 JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Our Future Begins Today” 「私たちの未来は、今日より始まる」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「明日に向かって、今日動こう」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ！」
「楽しい例会を」

2017年2月号
NO 486

疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。

マタイによる福音書11章28節

TOF一金でなく 1食抜く意味

ビジネス街のランチタイム、食事処は、どこも一杯です。今、ここに働く人たちの昼食代は、1人いくら位なのだろうかと思う時があります。それぞれの体調や懐具合、時間、あるいは気分によって違うでしょう。

2月は、Time of Fast (断食の時)です。クラブでは例会の食事を抜いて、食事代を TOF の献金として国際協会に送ります。

本年度、国際協会はこの資金で、①韓国釜山 YMCA のワイズメン医療団によるカンボジア、ラオス、ミャンマーに対する医療援助の支援、②モンゴル YMCA の若者の性感染症予防対策の支援、③ハイチ YMCA の山岳地帯の社会から疎外されている若者を対象とした教育活動の支援、④アフリカ Y Care International のマダガスカルの若者が生きていく

ための技術を習得する研修援助の支援など、16か国、25件のプロジェクトに1,400万円が用いられます。

近年の援助先は、飢餓や災害救助支援など、緊急を要するものではなく、継続性がある息の長い開発教育活動に多く向けられています。私たちワイズメンや YMCA が選び、直接かかわっている事業です。

個人の寄付や献金の額については、「ちょっと自分で痛いな」と感じるくらいが良いと、よく言われます。

TOF の献金額は、全世界一律でなく、その人の1食分の食事代としています。全世界、3万人のワイズメンが同じ痛みを感じながら捧げることは、素晴らしいことだと思います。

(吉田明弘)

北斎美術館と両国の町

WHOウォーキングのご案内

葛飾北斎が愛した町、両国を歩き、北斎美術館で彼の作品を鑑賞し、磯部成文さん(東京北)の会社の“小さな博物館”を訪ねます。
期 日：2017年2月25日(土)

コース：JR 両国駅ー江川太郎左衛門邸跡ー北斎生誕の地ーすみだ北斎美術館ー江戸 NORENー大高源吾句碑ーフットマークギャラリーー勝海舟生誕の地ー芥川龍之介文学碑ー吉良邸跡ー両国回向院ーJR 両国駅

集 合：JR 両国駅東口改札前(千葉寄り) 午前9時20分

解 散：JR 両国駅 午後2時半
携行品：飲料、防寒具、雨具

昼食を両国駅駅舎にある「江戸 NOREN」で。

参加費：900円(美術館入館料を含む)。

クラブ役員

会 長 高嶋美知子
副 会 長 篠原 文恵
書 記 本川 悦子
会 計 石井 元子
担当主事 宮崎 純

1月の記録				ニコニコ	8,100円
在籍者数	17人	メネット	1人	クラブファンド	339円
(内功労会員)	1人				
出席者数	14人	コメント	0人	ファンド残高	154,153円
メーカー	0人	ビジター	2人	ホテル校ファンド	10,500円
出席率	88%	ゲスト	0人	ホテル校残高	72,373円
前月修正	-	出席者合計	17人	WHO参加者	32人

2月例会のご案内

今月の強調テーマ： Time of Fast

昨年8月1日～7日まで台湾・台北で開催された国際ユースコンボケーション (IYC) には、20の国・地域から94人の若者が集いました。日本から参加した小林太地さん(早稲田大学1年生)は、「異文化に遭遇して、自分を見直す機会を得た」と感想を述べています。彼が、見たこと、感じたこと、を語ってもらいます。

日時：2月16日(木) 18:45～21:00

会場：あんさんぶる荻窪 5階第2会議室

会費：500円(全員)

担当：C班(篠原、鳥越、堀内、村野、吉田)

HAPPY BIRTHDAY

6日 片平 信子 8日 高嶋美知子

開会点鐘
ワイズソング
聖書朗読・感謝
挨拶と紹介
Time of Fast

卓話「異文化との遭遇・自分を見直す機会を得た」
—国際ユースコンボケーションに参加して—
小林 太地

ワイズ報告
YMCA報告
ハッピーバースデー
スピーチ(ニコニコ)
閉会点鐘

受付 鳥越 成代
司会 吉田 明弘
高嶋 会長
一 同
司会者
高嶋 会長
一 同

高嶋会長他
宮崎 主事
高嶋 会長
一 同
高嶋 会長

—1月第2例会(事務会)—

日時：1月26日(木)

19:00～21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

出席者：石井、大野、神谷、篠原、
鳥越、高嶋、本川、吉田

<報告事項>

- ①1月のデータを確認した
- ②1月の経常会計を承認した
- ③会員の近況：休会会員について、訪問と連絡しての状況の報告があった。前回訪問したときより反応は良いように見えた。主介護者と連絡をとって話し合う。もう1人の会員は自宅を訪ねたが会えなかった。隣の息子さんも留守だった。今後継続して連絡を図る。

<協議事項>

▲2月例会

卓話：小林太地さん(早稲田大学学生)を確認した。

▲2月第2例会

日時：2月23日(木)

19:00～21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

▲3月例会(東京世田谷クラブとの合同例会)

日時：3月17日(金)

19:00～21:00

場所：東京YMCA南センター
卓話：松井直樹さん(メンバー)
「先進主要国での福祉介護」

会費：未定

当クラブメンバー分は、石井会計がまとめて支払う。
*注意：通常と日時、場所が変わるので、3月例会案内を確認すること。

▲3月第2例会

日時：3月24日(木)

場所：あんさんぶる荻窪 1F
第1会議室

- ①次年度のクラブ役員(副会長、書記、会計)と委員長については、ほぼ決まっているが、本川次期会長が3月役員会に提案して最終的に決定する。
- ②来年2018年度3月のあんさんぶる荻窪の閉鎖に伴い、以後の例会場の候補を協議した
- ③区主催の研修会出席、訪問に係る経費のクラブからの補助について協議した。
・次期会長研修会、会長会に出席する会長の参加費はこれまで通りクラブが負担する。
・次期部長研修会に参加する次

卓話者紹介

小林 太地(こばやし・だいち)さん

1995年5月30日生れ、長野県長野高校出身、早稲田大学法学部1年。2016年8月1日～7日まで台湾で開催されたIYC(国際ユースコンボケーション)に参加した。

現在、東京YMCA山手学舎在住。昨年、山手学舎に入舎したことがきっかけでご両親、小林美彦さん、晶子さんが、長野クラブにクラブの活動に加わり、長野で開催された東日本区大会でご両親と共に活躍した。

期会長・書記・会計・事業主査の会費はクラブが負担する。予算処置は、次月会計が提案する。

- ④大野次期あずさ部長のスタッフは次の通りになると報告があった。書記・神谷幸男、会計・鳥越成代
- ⑤大野次期あずさ部長から10月21日(土)に予定しているあずさ部会を楽しいものにするためのアイデアを提案願いたいと要請があった。

(書記・本川悦子)



1月例会、グループワークを学ぶ

－1月例会報告－

1月例会は、1月19日(木) あんさんぶる荻窪5階第2会議室で、片平進一さんの司会で進められた。会食前に、東京目黒クラブから転入会した村野絢子さんの紹介と、ご本人の挨拶。

卓話は、担当主事の宮崎純さんによる「YMCA とグループワーク」。まず、YMCAでのキャリアの自己紹介。さまざまな組織で事業・活動を経験し、現在は国際ホテル専門学校校長として勤務となったとのこと。

そして、グループワークの実践。今日はワイズの仲間でのグループワークですが、YMCAの場面では初めて会う人同士で行うとのこと。まずはアイスブレイク。アイスブレイクとは初対面の人同士の心が固まっている緊張感を溶かすこと。ボケ防止にもなる体操。右手をグーで前につきだす、左手をパーで胸に置く、これを交互に10回行う、出来た！次に反対行動を行う。これが大変。出来ない…みんな大笑い。次に指を使って1～10までを数える。始めは親指から折曲げ開き1～10まで数える。これは誰でもできるが右手の親指を曲げた状態からやってみる。何とか出来た。次に親指・人指し指を曲げた状態から始める。出来ない人が出てくる。またみんなで大笑い。出来る事よりも、頭と他の動きを一緒にするのが良いとのこと。

次に初めて合った人たちをグループ分けし仲良くさせるため挨拶の仕方を皆で実習。「自己紹介」内容は小さい時のあだ名・夢

を話す。笑顔がこぼれる。信頼した仲間なのでスムーズに出来たが、全く初めての人には非常に難しいとのこと。そして3グループ(5人)に分かれ作業。配られたカードに書かれている特徴または名前を互いに読み合い、配られたシートの席次を確定していく作業を行った。グループの中での自分の役割、他の人の意見に耳を傾ける…と作業によりグループがまとまっていくのが実感できた。ワイズの仲間がより深められた笑いの絶えないひと時でした。

おかげで、卓話後、参加者がこれまで以上に互いに親しくなったのか、発言の声がマイク不要になっていました。(大野貞次)
出席者:<メンバー>石井、大野、片平、神谷、河原崎、篠原、高嶋、竹内、鳥越、本川、宮崎、村野、山田利、吉田、<メネット>神谷、<ビジター>藤井寛敏(東京江東)、長谷川あや子(東京八王子)、<メイキャップ>なし

新年歌はじめ 在京ワイズ新年会



早稲田教会・古賀博牧師の奨励

恒例在京ワイズ合同新年会は1月7日(土)12:30～15:30、東京YMCA山手コミュニティセンターにて東京たんぼぼYサービスクラブのホストで行われた。第1部は礼拝。「虹は…ここにある」と題して早稲田教会の古賀博牧師の奨励をいただいた。東日本大震災、熊本地震復興支援のために献金を捧げた。

第2部は会場を替えて会食と懇談、新春歌はじめと賑やかに楽しい宴が展開された。ゲスト・ピ

◆12月23日東陽町センタークリスマスオープンハウスが地域の方々や近隣小学校の協力のもと開催されました。バザー、模擬店、被災地応援物産販売、絵画展、ウェルネスセンターの子どもたちの発表会などが行われ、約65万円の収益金は、地域の高齢者プログラムや国際協力活動、被災地支援、青少年リーダー養成のために用いられます。ご協力に感謝いたします。

◆全国のYMCAでは今年も2月22日に「いじめのない世界をめざそう2017<ピンクシャツデー>」を実施します。ピンクシャツデーとは、2007年カナダの2人の学生から瞬く間に世界に広がった世界的いじめ反対運動です。ピンクのシャツを着て登校した少年が「ゲイ」だといじめられました。それを見た2人の友人が50枚のピンクのシャツを友人・知人に配り、翌日登校しました。呼び掛けに賛同した多数の生徒がピンクのTシャツを着て登校して学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。そのエピソードがSNS等で世界中に広まり、現在では70カ国以上の国でいじめに対する活動が行われています。カナダで最初にこの出来事があった日が2月の第4水曜日でした。それ以降YMCAでは、2月の第4水曜日にはいじめについて考え、いじめられている人々と連帯する思いを表す1日としています。どうぞお覚え下さい。

(担当主事・宮崎 純)

ジター21人を含む総勢125人が参加し新年を祝い、更なる発展を祈願して、YMCAの歌を合唱して15:30お開きとなった。

参加者は、大野、片平、神谷、高嶋、本川、宮崎、村野、吉田、神谷Mであった。(神谷幸男)

歓迎！

転入会・村野絢子さん

東京目黒クラブから転入会した村野絢子さんは、1968年からの同クラブのチャーターメンバー。東京目黒クラブに転入会したパートナーの繋さんとBF代表としてカナダを訪問するなど国際大会にも多く参加しています。名古屋の私立小学校で理科の先生をされ、子育てが一段落して都内の学校に復帰しました。趣味は、ケーキづくりとコーラス。5人の母、11人のおばあちゃん。杉並在住。

在京クラブ会長会

東京都内にある18クラブの会長と担当主事が一堂に会する在京クラブ会長会が、1月7日(土)午前中に山手センターで行われました。

会は、会長会幹事の長津徹さん(東京サンライズ)の司会で、ゲストの挨拶、参加クラブの代表の自己紹介を兼ねた一言挨拶で始まりまし。

報告は、次の通りでした。

- ①会長会幹事挨拶・会計報告
- ②東京YMCA 会員部報告
- ③在日本韓国YMCA 報告
- ④日本YMCA 同盟報告

協議では、次年度の在京新年会のホストを東京ベイクラブとすること、次回在京会長会を東京YMCA 会員大会の行われる5月27日(土)に行うことを決めました。また、会長会事務局経費として、2016年度会費3,000円を6月末日までに振込むことを確認しました。

東京YMCAに協力するクラブクラブは、ワイズの組織では、関東東部、東新部、あずさ部に分かれていて、日頃顔を合わせることは少ないのです。一堂に会する良い機会でした。

クラブから、宮崎担当主事、会長・高嶋が出席しました。

(高嶋美知子)



WHOにて：写真上は、関東震災復興の魁として再建された三井本館。右は、19回架けなおした日本橋の灯柱と首都高速



WHO 2017年 歩き初めは日本橋

2017年の歩き初め(歩きぞめ)は、1月28日。先月に続いて2回目の日本橋。今回の目当ては歴史的建築物と老舗で、1回目とは趣の異なる新春らしい行程。

当日は、やや寒気が緩み、日差しもあり、32人が東京駅を出発。

日本橋界限は、関東大震災以後の昭和一桁に建てられ、戦災を潜り抜けた名建築が残っているが、近年、開発が進み、高層ビルの林立で大変貌。いまだに建築ブームが続く、至る所で巨大なクレーンが恐竜の長い首のように伸びている。

高層ビルに囲まれた京橋明治屋は、シンプルな外観、子どもの頃から馴染みの高島屋は重要文化財。山二証券ビルは赤いスペイン瓦が華やかでモダン。桃乳舎は、ミルクホールとして建てられ、今も人気のレストラン。日本橋川に沿って日証館、続く三菱ダイヤモンドビルディングは船舶をモチーフとした外観。巨大な野村證券本店を通り過ぎて日本橋を渡る。橋の上を首都高速が通り、旧東海道の起点であった面影なし。なんともあわれ。

日本橋川の南北両側には、江戸時代に創業した老舗、名店が暖簾を守り続けている。山本山、山本海苔店、栄太楼、とらや、鮎佐、貝新、にんべん、砂場、木屋、千足屋などなど。

11時30分、三越に到着。前回

と同じく、1時間の昼食解散。三々五々室町コレド周辺の店を目指して散り急ぐ。

昼食後は、三越本店、三井本館、日本銀行本店と超有名建物を回る。通いなれた三越も、店内の商品に目を奪われ、外観を観ることがなかったのが勿体ない。日銀本店の建物にさすがと圧倒され、区立常盤小学校の可愛らしさに感激しつつ、神田駅で解散。古き良き建物がこれからも生き続けることを切に願う。

ワイズ関係参加者は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤井(東京たんぼぼ)、関(石巻広域)、樋口(東京グリーン)でした。クラブOBで建築家の佐藤幸楽さんに三井村の解説をお願いしていましたが、行き違いで出会えず、残念でした。(石井元子)

区定款改訂案に対する クラブの意見

東日本区定款の見直しについては、4年前から見直し作業が始まりました。昨年、区の定款改訂委員会による改定案の各クラブによる検討要請がありました。

クラブとして2回にわたり、説明と話し合いを行いました。特に問題点は出されず、1月末に、その旨、会長からあずさ部長に回答しました。定款は、クラブや個人の意見を参考にして、改訂委員会にまとめ、答申されます。改訂委員会には、吉田明弘さんが委員として加わっています。

☆☆ インタビュー ☆☆ 久保田貞視さんに聴く

* * *

今月は、東京八王子クラブ・久保田貞視さんです。(吉田明弘)



—貞視さんというお名前、ご両親のどういう思いからですか。

「父が、新田義貞の「貞」と岩倉具視の「視」から取ったようです。名前負けしていますが…」

—昔の話をしていると、いろいろな地名が出ますね。

「生まれは、海軍基地のあった横須賀田浦でした。父が海軍で、追浜、館山、六浦と転勤し、疎開で茨城の真壁、戦後は西多摩の成木、福生などに引越しました。銀行に就職して、最初は名古屋支店。海外店では米国のシアトル、ポートルランド、中東のバーレーンや香港にも住みました」

—八王子へは。

「1986年に親の近くに自宅を持ちたいと思い、八王子に住むようになりました」

—子どもの頃は。

「小学校時代は、野球や将棋、ベーゴマ、川で水泳、魚釣り、山で焚き木拾い、蕨やキノコ採りなど自然の中で遊んでいました、中学では野球部に入りました。本は偉人伝が好きで、将来、医者か宇宙飛行士を夢見ていました」

—銀行の海外支店では。

「私の銀行は、やや特殊ですが、日系取引先は輸出入金融業務、外国送金や関連する預金・融資業務、調査業務など。外資系では地場大手企業への融資、シンジケートローン・ソブリンローン、輸出

入ファイナンスが主でした。バーレーン支店では1982年にサウジアラビアのビンラーディン建設会社を与信業推で訪問したことがあります。後にアルカイダのビンラーディンが当時、伯父さんの下で真面目に働いていたことを後で知り、何故？疑問です」

—YMCAにはいつから。

「中学時代、後に彦根クラブの故西森末次郎さんが福生の教会で副牧師兼通訳をされていて知り合い、名古屋支店に勤務になった1963年頃、彦根市の西森さんの自宅を訪問し、YMCAやワイズのことを良く聞きました」

—素晴らしい。西森さんは山田利三郎さんが理事の時に奈良傳賞第1号に選ばれた方ですね。

「そうです。YMCAへは63年に名古屋YMCAに入りました」

—アメリカでもYMCAに。

「シアトル時代に自宅の近くにYMCAがあり、我が家の子どもたちも、キャンプや水泳で利用していました」

—ワイズメンズクラブには、

「家の近くに今原勇さんという方(故人)がおられ、奈良昭彦さんたちと八王子にクラブを設立するからと誘われ、チャーターメンバーとして入会しました」

—すぐになじみましたか。

「最初は例会日が銀行OBのハイキングと同じ日で、開会時間に遅れがちでしたが、だんだんワイズ活動にのめり込みました」

—YMCAでは常議員・評議員もされていますが、何が課題だと思われませんか。

「YMCAは、会員の運動体であるべきですが、ユースの教育・鍛錬の場としてジム、キャンプ、専門学校経営によって収益もあがり、持続可能な団体とする必要があり、相応の収益を確保することが必要です。諸活動がYMCAミッションに合致することが重要で評議員会でも検証しています」

—区の事務所長も務められまし

た。区を好転させる手がかりは。

「会員増強は永遠の課題ですが、各クラブが地域社会に密着した奉仕活動を進めれば、知名度も上がりクラブの活性化に繋がり、会員も増加します。地域活動でYMCAとの協働だけでなくワイズでも独自で積極的に地域に溶け込みファンを増やすことです」

—クラブメンバーとして、行政や地元の団体とのパイプを維持開拓されていますね。

「29年前に在住外国人との共生を目的とする「八王子国際友好クラブ」の創設メンバーとなり、その後、「八王子国際協会」、「八王子市民活動協議会」に会員として参加しています」

—高尾山に登る会も。

「北野駅から特急電車で3駅目に高尾山登山口があり、手ごろなので10年前にメンバーの親睦と健康維持を目的に、橋本秀昌さんと立ち上げました。当初はメンバーだけでしたが、他クラブや友人にも声をかけて現在は毎月、10人前後で登山しています。現在は、八王子観光協会の「高尾山見どころガイド」と高尾山駅案内所でボランティアをしています」

—ワイズでの一番の思い出は。

「いろいろありますが、一昨年、クラブ20周年に、IBCの高雄オーケストラの声掛けで、高雄ユースオーケストラを八王子に招き、市立中学校5校のブラスバンドと共演、中学生の懇親会を開催したことです。市の協力、会場の無料利用、八王子台湾友好交流協会の協力と衆議院議員や市長の出席もありました」

—今、ワイズでの夢は。

「地元の会員を増やし、地域の奉仕団体と協力して、時流に沿った奉仕活動を立ち上げる。東京YMCAのセンターを八王子市に設立し、現在中途半端になっているYMCAとの協働での奉仕活動をより積極化することです」

—有難うございました。

(D)百歳長寿の前に立ちほかかる
認知症③

(E) ボケない百歳の心—(続き)

◎退屈しないこと、笑うこと

ボケは「ぐうたら病」。入院しても足指じゃんけんや首回しなど、動かせるところはどんどん動かし、読んだり、書いたり、歌ったり、考えたり、頭を使うこと。(1997年、122歳まで生きたジャンヌ・カルマンさんの答えた長寿の秘訣より)

◎おしゃれのすすめ

お化粧。マニキュアをする。自分で選んだ服を自分で組み合わせさせて着る。身なりに気を使わなくなった人間は壊れていく。

◎両手と舌を動かしていれば、脳はさび付かない

人間は、手と舌を使う神経細胞の数が最も多い。おしゃべりも脳の活性化に最高。

◎有酸素運動

普通の歩行速度を超える運動強度で週3回以上運動している者は、全く運動しない者に比べて

認知症の危険度が半分だった。(4,700人の4年の追跡結果から)

◎旅行好きはボケない

いろいろ情報を調べて行き先を決めて、スケジュールを作って、旅支度をして…という準備の一つ一つが最高の脳トレーニング。

◎新聞、文通：読んで書いて世界とつながる

ボケない百寿者には、新聞を毎日すみずみまで「読む」人、日記や手紙、俳句や和歌など「書くこと」にこまめな人が多い。(世界最高114歳の木村次郎右衛門さんの日課より)

◎カラオケは一生楽しめる

歌うことで心身ともにリラックス出来て、脳が刺激され、ボケ防止に役立つ。

◎イチョウ葉エキスの効果

「生きた化石」と言われ、中国で唯一種残っていた。1970年医薬品としてヨーロッパで認可。アメリカでアルツハイマー病への効果が、遺伝子レベルで解析され

た。市販のサプリメントにも一部入っている。

* *

上記以外にも認められた認知症の予防方法があるが、老化やがんの予防にも共通のものが多く、早めに実行して、ボケない元気な百寿者を目指しましょう。因に、個人差も大きいので、これらを実行しても効果なく、少しでも疑わしい症状が現れたら、恐れず専門医に受診して治療を始めることも大切。ほぼ全治に近く改善する人もいる。

今回は、自分や家族の気付かぬ認知症を3分間で知る事の出来る「簡易スクリーニングシート」を紹介する。認知症トラブルが家庭内で起きないために…。

(※先月号の記事中、コーヒー摂取量の影響について、宮城県とありましたが宮城県が正しい標記でした。お詫びして訂正させていただきます。編集)

始めと終わり

村野 絢子

今、原稿を書いているのは、はじめ夫の母の画室として建てられた場所、40年前に建直し、20年前に増築した玄関脇の6畳の洋間。母が11年前89歳、叔母が8年前96歳で、この場所にあった重い介護用ベッドで最期を迎え天国に旅立った。母とは1年間叔母とは3年間、楽しく良い時を過ごした。

初めてYMCAのキャンプに参加したのは山手の家族キャンプ、翌年目黒クラブのチャーターの1月前に名古屋中央教会で結婚式を挙げ、福尾昇一夫妻が和泉教会から迎えに来てくださった。原宿の福尾宅で例会のためのお弁当作りを続けた。切手整理、家族キャンプ、本間立夫さんの早朝サイクリング…そして50年、福尾夫

妻、鈴木ベルさんも亡くなられ、力尽きて目黒の旗を降ろした。

昨年結婚した甥に10日前女兒が誕生した。佑芽(ユメ)と名付けられた。2月末にはモーリシャスに住む孫・高校生の理佐がイタリアで開かれる子どもの人権に関する若者の国際会議に手を挙げ参加するという。次々に新しい動きが始まっている。

私にはどうも刺激(誘い)にすぐ反応する動物的な部分が多く残っているらしい。お菓子作りでは出来上がったものをどう用いるかによって何をどう作るかを決め、経験と技術を生かし準備を始めるのに、他ではその部分を飛ばしてパッと行動してしまう危なさが今も習性として残っていて次々に問題を引き起こしている。周りに心配されず、ゆったり周りを見て落ち着いて動き始め、止まれる人になりたい。

編集後記

最近、あるワイズメンが山梨県の教会を訪れたら、牧師から「学生時代、杉並YMCAでリーダーをしていて、数年前にそれまでの仕事をやめ、神学校に入った」と言われたそうです。その名に記憶がありました。1979年夏、杉並センターは海外のYMCAキャンプに3人のリーダーを送りました。その1人の彼女は、コネチカット州のYMCAキャンプ指導者養成プログラムに参加し、空手を教えてくれと言われ、相撲を教えた逸話の持ち主です。東京西クラブは参加費をカンパし、杉並YMCAにリーダーズファンダが生まれました。その教会に通う私の恩師によると「明るくお話も明快で素敵なお先生」とのこと。機会があれば、あずさ部の会合に来ていただきたい。何よりも、その名が素晴らしいから。(AY)